

監

監の古い形は監^監です。臣は臣^臣で、目を大きく見開いた形です。“見張る”のが本義で、普通は“見張る人”つまり“家来”の意味に使われます。𠂔^{ひと}は人の変形です。皿^皿は、皿^皿に水がいっぱい入っていることを示したものです。だから監は、皿に満だした水に人が顔をうつして、それを見つめることを表わした字です。

つまり、“水かがみ”が監の本義です。上から見おろして見なければならぬので、“見おろす”“部下を見張る”という意味にも使います。監督、監視、監査。

鑑は、金属性の“かがみ”が本義です。鏡と同じものです。ガラス製の鏡ができるまでは、銅や鉄板を磨いて作りましたので、鑑とか鏡とかという字になりました。人は鏡を見て、初めて自分の姿が分かるので、“反省する”“手本”の意味にも使われます。亀鑑(かがみ = 手本)、年鑑。

檻は、囚人を監視するために入れておく木製の“おり”のことです。監視の意味の監と、材料の木とでこの字を作りました。檻^{おり}は格子で困^{こうし}

ってありますから、“格子や“手すり”を檻^{カン}と言うこともあります。欄檻(橋の手すり)。

艦は、海上の戦闘のために、防禦の檻^{おり}を備えつけた大きな舟です。檻と舟との会意形声字です。軍艦、戦艦。

濫は、水かがみ(監)の水が“外にあふれ出る”という意味の字です。汜濫は、川の水が外にあふれ出ることです。転じて“度が過ぎる”という意味に使われます。濫用、濫造、濫読(みだりに読むということ、乱読では意味が通じません)。音は、監^{カン}(kan)が変化してラン(lan)です。k音はl音に变じやすいのです。

覽は、見おろす意味の監の省略した形“臣^臣”と見^見との会意形声字で、“上から下をつくづくと見る”という意味の字です。尊敬すべき人について使います。御覽、遊覽。

藍は、監^{ラン}という名の草のことです。日本名では“あい”と言います。この草をとかして作った染料の色が“あい色”です。藍汁^{あいじゅう}を煮つめると“青色”の染料ができあがります。それで、「青は藍より出でて藍よりも青し」(出藍^{シュツラン}のほまれ)という諺が生まれました。弟子の方が先生よりりっぱになったことを表わした諺です。